

2021年度  
事業計画書

自 2021年 4月 1日  
至 2022年 3月 31日

① 清風荘 事業計画	・・・・・・・・・・	p1
② さわの風 事業計画	・・・・・・・・・・	p2
③ やまゆりの里 事業計画	・・・・・・・・・・	p3
④ じゅらく 事業計画	・・・・・・・・・・	p4
⑤ 清湖園 事業計画	・・・・・・・・・・	p5
⑥ ほろん 事業計画	・・・・・・・・・・	p6
⑦ 法人事務センター 事業計画	・・・・・・・・・・	p7~9

# 2021 年度 清風荘拠点 事業計画

定員：施設入所 90 名・短期入所 20 名

令和 3 年度の制度改正では、新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生した場合、利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供できる施設運営が求められています。その対応力強化ためには質の高いサービスが提供できる人材育成を行った上で介護ロボット・ICT の活用とそれに係る業務改善の取組が重要である。


限られた人員の中でサービスの質と量を担保するために施設の改修と介護機器等の導入を計画しています。それに則した業務手順書の更新と業務の効率化からケアの充実を図ります。

入所者はもとより在宅で利用される方においても住み慣れた地域で個人の尊厳を保持し「当てにされ、ゆたか会があってよかった」と評価されるサービスが提供できるように下記の項目に取り組みます。

## 基本理念

やさしさと 笑顔 まごころで なごやかに 憩いうるおう しあわせなくらし

## 基本活動方針

“好きです！ゆたか会”をスローガンに「利用者も職員も幸せになれるように」「働きやすい職場づくり」に向けて

- ・相手の気持ちを考えて関わっていきこう
- ・時間があったら隣に座ろう

### 1. サービスの質向上

- ①利用者の方が幸せと感じられるように「寄り添いケア」に取り組む（時間を作って一緒にお茶タイム等）
- ②利用者、家族と共にケアプランを作成し、幸せと感じられる温もりのあるケアの提供に取り組む
- ③利用者個々に応じた日中の過ごし方を大切にする
- ④終末期には家族の協力のもと多職種連携により一層の看取りケア向上に取り組む
- ⑤素材の味を活かした昔懐かしい食事、体調や終末期等の状況に即応できるフードサービスの提供
- ⑥ベース介護の業務手順書を見直し現状に即応したマニュアルを作成し、業務改善と効率化を図る
- ⑦在留資格「特定技能」の外国人教育は手順書をもとに育成担当職員による OJT の実施
- ⑧目標管理活動、3S 活動、個人面接の実施により職員相互の問題解決能力、コミュニケーション能力、チーム向上を目指す

### 2. 財政基盤の安定と設備改修

- ①収益の確保に向け、計画的かつ効率的な事業運営を行う（短期入所受入れについては、法人内事業所との連携を図る）  
目標稼働率：入所 96% 短期入所 75%
- ②事業の利用率や予算の執行状況を共有化するために各部署と連携を図る
- ③浴室改修と介護機器を導入する。
- ④電話、ケアコールシステム、ICT 活用（モニター・タブレット等）による業務効率化と職員の負担軽減の検討を行う

### 3. 働き甲斐のある職場の実現のために

- ①職員が幸せと感じられるような処遇と労働環境を整え就労定着を目指す
- ②職員のメンタルヘルスと風通しのよい組織風土をつくる
- ③介護職員の身体的負担の軽減と利用者への安全性の確保のための機器の導入を行う
- ④ワークライフバランスに配慮した人材確保と働き方の推進を継続
- ⑤障害者職業生活相談員による定期的な個別面談を実施する

### 4. 地域における公益的な取組み

- ①地域共生社会の実現に向けた地域の拠点としての役割を果たす
- ②子どもの居場所づくりとして「フリースペースゆったり」の提供を清湖園と共に行う
- ③小規模法人ネットワーク化協働事業でのモデル施設として仮想 BCP 訓練を実施して災害時における施設機能強化（事業継続）を地域住民と共に確立する

## 2021年度 さわの風 事業計画

定員（登録）：施設入所 29 名・短期入所 1 名 小規模多機能 21 名

新型コロナウイルスの問題に対し、感染予防の対策と健康管理は継続の必要がある。その中でも、利用者がより良い生活を送れるように状態の把握と情報共有を行い、変化に対してスムーズに対応し、利用者のご家族の満足感を向上させる。家族と利用者の繋がりを重視した個別ケアが可能な小規模施設であることを生かし、利用者ご家族との関係を継続させ、職員とも親密な関係を築き、双方が満足できるケアを提供する。また地域密着型施設として、事業所を拠点とした地域づくりという役割を担っている。地域の課題の把握とさわの風として何ができるかを探りながら、行動に移す令和3年度とする。地域住民との交流を活発に行い理解や協力を得て、施設の密室性や閉鎖性の解消などに取り組む。

「住み慣れた家で、顔馴染みのいる地域で暮らしたいそんなささやかな願いを大切にしたい」

### 基本理念

一人一人の利用者の個性を尊重し、心のこもった介護を目指す。利用者を中心とした支援を清潔で安全な環境の中で行き、「ここでよかった」と感じていただける施設づくりをする。

### 基本方針

“好きです！ゆたか会”をスローガンに「魅力あるゆたか会をつくる」「働き方改革の実現」に取り組む。

「いきいきとさわの風」をテーマに、部署も職種も関係なく互いを思いやる気持ちを持ち、認め合い支え合い、安心感のある職場環境を作る。

## 1. サービスの質の向上

- ① 介護手順マニュアルの見直しを図り利用者が元気に過ごせることを目的として根拠のある介護を行う
- ② 認知症を十分に理解しケアの充実を行い、勉強会の開催、研修への積極的な参加に努める。
- ③ 各ユニットの目標に対して目標管理活動を通して達成を目指す。
- ④ 食べる楽しみを持ち続けていただけるような食事の提供をフードサービス係と連携し行う。
- ⑤ 小規模多機能において利用者の生きがい作りと自立支援のため活動の選択肢を広げる。可動式キッチンを設置し料理やお菓子作りを行える環境を作る。

## 2 財務基盤の安定

- ① 健康管理の充実とスムーズな入所支援を行い特養の稼働率96%、空床利用を行い短期入所の稼働率90%、小規模多機能においては登録定員（21名）に対する登録者数100%を目指し、安定した収入に繋げる。
- ② 経費削減意識を持ち、無駄をなくす。

## 3 働き甲斐のある職場の実現のために

- ① 職員の精神的な負担軽減と風通しのよい組織風土をつくるため定期的な面接を実施する。
- ② 介護職員の身体的負担の軽減と利用者への安全性確保のための福祉機器を活用する。

## 4 地域福祉と地域貢献

- ① 対象の高齢者だけでなく世帯丸ごと支えることが求められる中、小規模多機能で受け止められるように質の向上を図り、事業の拡大を目指す。
- ② 地域と連携し福祉避難所としての機能強化を図る。
- ③ 運営推進会議を2ヶ月に1回（偶数月）に開催し地域ニーズを把握する。
- ④ 高島市、高島市社会福祉協議会との連携し子供の居場所づくりとして「フリースペースさわのそよ風」の提供を継続して行き、ボランティアの関わりを増やしていく。

## 2021年度 やまゆりの里拠点 事業計画

(定員：小規模特養 30 床・短期入所 6 床・通所 18 名・居宅・訪問)


(定員：地域密着型小規模特養 20 床・短期入所 2 床)

2021 年度介護報酬改定は「感染症や災害への対応力強化」「地域包括ケアシステムの推進」「自立支援・重度化防止の取組の推進」「介護人材確保・介護現場の革新」「制度の安定性・持続可能性の確保」を図る視点から行われた。厳しい介護環境のなか、新たな施設運営が求められている。初心に返り改定に沿った柔軟な対応ができるよう努力し、職員と利用者が共に笑顔溢れる楽しい日常が送れる年としたい。また、コロナ禍の今こそ地域との繋がりを大切にすること。地域に根差した福祉拠点として積極的に連携をしていく。

### 基本理念

「美しいところで 安心して 楽しく暮らせるように・・・」その担い手として、地域住民に公平に接し、絶えず人権尊重の理念に基づいた質の高い福祉サービスを提供する。

### 基本活動方針

“  好きです！ゆたか会” をスローガンに

「魅力あるゆたか会をつくる」「働き方改革の実現」に取り組む。

“みんなでやまゆり” を合言葉にあたたかいケアの提供と業務改善を実践する。

#### 1. サービスの質の向上のために

- ① 感染症予防対策の強化（委員会・研修等）により安心安全な生活に繋げる。
- ② 利用者の尊厳の保持を基本に、手順書を見直し標準化したケアと業務改善を実践する。
- ③ 認知症への対応力向上のため、認知症基礎研修等へ参加し認知症ケアの向上を目指す。
- ④ 家族と共に「温かい終末ケア」を考え、皆が「よかった」と思える看取りケアの実践。
- ⑤ 運営推進会議を通して利用者・家族・地域との連携を大切にし、透明性を図る。
- ⑥ いつまでも食の楽しみを感じていただけるように、季節感のある食を提供する。

#### 2. 財務基盤の安定を図るために

- ① 利用者の適切な健康管理と迅速な入退所に努め稼働の安定を図る。
- ② 介護報酬改定（科学的介護等）の検証と加算を意識し収入に繋げる。
- ③ 施設入所 96%・ショートステイ 75%・デイサービス 70%を稼働の目標値とする。
- ④ 適切な施設維持管理のため、計画的に高島市との協議を実施する。

#### 3. 働き甲斐のある職場の実現のために

- ① 「人を大切に、個を活かす」ため職員面接を実施し良好な人間関係を構築する。
- ② エビデンスに基づいた職員処遇の向上とキャリアパスの明確化を図る。
- ③ ワークライフバランスと多様な就労形態で職員定着と人材確保を目指す。

#### 4. 地域福祉と地域貢献

- ① 防災意識と危機管理意識を高め近隣地域と連携する仕組みを作る。
- ② 福祉避難所として非常時における速やかな対応に備える体制を作る。
- ③ 円滑に他機関との連携を図り、地域の包括的なネットワークの推進に努める。
- ④ 地域への職員派遣（研修会等）や施設備品の貸出等社会資源の一端を担う。


ケアハウスじゅらくは開設 21 年を経過し、入居者の高齢化が進み介護保険サービスを利用しながら概ね自立した生活をされている。現在の待機者は、地域で独居生活をされている方やご夫婦での入居希望を頂いますが、保険的に入所申込をされている方が増えつつあります。

第二の人生の住まいの場として入居後も住み慣れた地域や顔馴染みの関係で、安心・安全・豊かな生活の場となるよう自らサービスを選択し、「身体的自立」、「精神的自立」、「社会関係の維持・拡大」の三本柱を基本とし総合的に援助が出来るよう事業を実施する。

### 基本理念

自立した生活の充実、ゆとりのある暮らし、安心して暮らせる生活

### 基本方針

“ 好きです！ゆたか会” をスローガンに

- ・入居者の自主性、自立性を尊重し、一人ひとりの生活を支えるケアを提供する
- ・生活しやすい居住空間、地域との結びつきを大切にする
- ・入居者の趣味・教養・娯楽等への協力と支援を図る

## 1. サービスの質の向上

- ①入居者のプライバシーに配慮しながら社会参加、地域との交流を促進する
- ②生活する上でのサポート体制を充実するために高島市社会福祉課や民生児童委員との連携のもと“命のバトン”の継続ならびに在宅福祉サービスの利用と入居者の医療対応や状態にあわせて包括的に特養清風荘の支援を継続する
- ③定期的に運営懇談会を実施し、入居者の意見や要望を反映した運営に努める
- ④認知症予防のための余暇活動や臨床心理士の面接によるセラピー、理学療法士による健康体操等専門家との連携を図る
- ⑤要介護の入居者に転倒防止の「居住環境のチェック」の実施と検証ならびに助言を継続する
- ⑥目標管理活動、3S 活動、個人面接の実施により職員相互の問題解決能力、コミュニケーション能力、チーム向上を目指す

## 2. 財務基盤の安定と設備改修

- ①予算の執行状況を共有化するために事務センターと連携を図る
- ②経年劣化に伴う施設整備として屋上防水加工改修ならびに共用部空調機器の更新を検討する
- ③日々の経費節減に努める

## 3. 働き甲斐のある職場の実現のために

- ①職員処遇の向上とキャリアパスの具現化に努め、就労定着を目指す
- ②職員の負担軽減をするためのメンタルヘルスと風通しのよい組織風土をつくる
- ③ワークライフバランスに配慮した職場環境を推進する
- ④職員が働きやすい職場は、利用者が安心して楽しく過ごせる場であることを常に意識する

## 4. 地域福祉と地域貢献

- ①地域との共催行事や活動への参加を積極的に行う
- ②小規模法人ネットワーク化協働事業でのモデル施設として仮想 BCP 訓練を実施して災害時における施設機能強化（事業継続）を地域住民と共に確立する

## 2021年度 清湖園 事業計画

定員：施設入所60名・生活介護60名・短期入所4名・日中一時3名

利用者は在籍者58名中48名が50歳以上を占め、そのうち60歳以上が33名であり、高齢・重度化による身体機能の低下が進み、日常生活の中で介護・医療等、様々な支援の必要な方が増えており、施設内での看取りの体制整備も急務となりつつあります。併せて、利用者及び身元引受人の高齢化や世代交代が進み、「親亡き後」に備えての地域生活支援拠点等の整備も求められています。そのような利用者の重度化や高齢化、緊急時の受入れ等効果的にサービス提供を行うためにも適正な人材確保や配置、マニュアル等を活用したOJTを行いながらの人材育成を進め、また、サービスを持続的に提供できるようリスクマネジメント、感染症予防対策も継続し、地域から「信頼される施設づくり」を目指します。

### 基本理念

#### 重度障害児者の支援施設として「その人らしい生活の支援」の実現をめざす

【重度障害児者の支援施設として、在宅生活支援（地域）のニーズに応えます】

【利用者の意思をくみ取りながら人権侵害等に繋がらないよう取り組みます】

### 基本活動方針

“好きです！ゆたか会”をテーマに「魅力あるゆたか会をつくる」「働き方改革の実現」に取り組む

#### 「真ん中の支援」「障がい特性の理解」「安心安全なくらし」

#### 1. サービスの質の向上

- ①虐待防止委員会を立ち上げ、自己チェックや支援の振り返りを通して意識の徹底を行う。
- ②身体的介護や医療ケアの必要性の高い利用者が増加のため、医療・介護の基礎知識や支援スキルの向上を図る。
- ③転倒・転落アセスメント等により、リスクマネジメントを強化し利用者個々の状態に応じた適切な支援を行う。

#### 【施設生活での最大の喜びは食事であり、食の安全と楽しい食事に努める。】

- ④法人フードサービス係と食事に関係する委員会・食事支援係の連携を図り、協働しながらの取り組みを行う。
- ⑤現在行っている行事食、嗜好食事、喫茶、お菓子作りなど「食」の楽しみの提供を継続して取り組む。
- ⑥利用者の健康への配慮の徹底化を図りながら医療的支援行為の必要な方への対応力も高めていく。
- ⑦「看取り」対応に必要な支援体制の検討、職員研修を進めていく。
- ⑧品質管理委員会中心となり、介護技術手順書の見直しと検証を行い人材育成、OJT推進を行う。
- ⑨常に利用者の理解を得ながら支援の見直しを行い、「量から質」へのサービス提供を行う。

#### 2. 財務基盤の安定を図り事業継続のための施設設備改修計画の樹立

- ①稼働率（収支等）状況の説明、適切な予算執行や経費の節減に取り組む。
- ②入所定員充足の維持に努めながら、短期入所の利用を緊急対応も含め積極的に受け入れる。

目標稼働率：施設入所96% 生活介護85% 短期入所75%

- ③安全と安心に配慮し介護職員の身体的負担軽減のため浴室の改修工事の具現化を行う。

#### 3. 働き甲斐のある職場の実現

- ①働き方改革を進めるために、業務の効率化・適切な勤務時間を把握しながら、有給休暇取得の取組を継続
- ②ホウ・レン・ソウの徹底により風通しの良い職場づくりを目指す。チームで支援する意識の向上を図る

#### 4. 地域における公益的な取組の実施

- ①地域生活支援拠点等整備に向け、ほろん拠点と連携し緊急時の迅速・確実な支援の実施と短期入所の活用
- ②生活困窮者への支援として無料または低額な料金でサービスを提供する。
- ③障害者雇用の促進に継続して取り組む。
- ④子どもの居場所づくりとして「フリースペースの提供」を清風荘拠点と共に行う。
- ⑤専門職である作業療法士、音楽療法士の地域支援活動（派遣）を行う。
- ⑥清風荘拠点と連携し災害・非常時における事業継続（BCP）と福祉避難所としての機能強化を図る。

## 2021年度 湖西総合在宅サービスセンターほろん 事業計画

事業名：就労継続支援B型（定員32名）、就労移行支援（定員8名）、就労定着支援  
訪問介護、居宅介護支援、計画相談、社会参加、働き・暮らし応援センター

昨年から続くコロナ禍により、生活スタイルが大きく変わりました。介護分野、相談分野においても新しい支援スタイルを考え提供していく必要があります。そして、そのような環境においても、一人一人がその人の意思に基づき、暮らしたい場所で、暮らしたい人と、その人らしく、生き生きと、安心して暮らせるよう高島地域における在宅支援拠点の一つとして機能していけるようにします。障がい分野では、障がい者の重度化および高齢化や、「親亡き後」に備え地域における支援体制の構築が求められています。今年度より、高島市地域生活支援拠点事業の登録を行い、これらの人が地域生活で発生する様々な不安を少なくして生活できるよう、拠点の一つとして機能させます。また今後は、一家丸ごと支援が必要な家庭への対応も必要となってきます。ほろんが持っている複数の専門分野の連携を強化するとともに、地域住民の相談事をまずは受け止め、必要な機関とつながっていく、『断らない相談窓口』として地域から信頼される事業を展開します。

### 基本理念

仕事や活動を通じ、いつまでも意欲を持って、生きがいとやりがいのある、その人らしい生活が送れるよう支援をする。

### 基本活動方針

“♥️好きです！ゆたか会”をスローガンに「魅力あるゆたか会をつくる」「働き方改革の実現」に向けて。

ほろんテーマ『すべての壁をとっばらえ！！』

活動方針「認め合い」「助け合い」「感謝の気持ち」

- 1、各事業の理解をし、互いに意見を出し合い、個々の意見を大切にする。
- 2、所属する事業以外のことも考え、助け合える職場作りを目指す。
- 3、笑顔で「ありがとう」といえる職場環境をつくる。

#### 1. サービスの質の向上

- ①困難事例に対して、事業枠を越えた相談や会議への参加を行う。自分の管轄外、専門外でも、少しでも理解、興味を持ち受け止める姿勢で取り組む。
- ②要望やヒヤリハットなど、小さな気づきを大切に、各種委員会に結び付ける。
- ③各事業の業務マニュアルの作成および、見直しを行う。
- ④ICT化を進め、動画や映像による関係機関との連携を深めたり、外出先からのスムーズな対応など、コミュニケーションツールとして有効活用していく。

#### 2. 財務基盤の安定

各事業目標値：就労継続支援B型70%・就労移行支援60%・計画相談契約者数150名・ホームヘルプ実人数 老人42名、障がい20名・居宅介護支援ケアマネ一人につき担当 要介護35名、要支援6名。

- ①すべての事業において、新規利用者の確保と安定をはかるとともに、介護報酬改定による、各種加算の取得に向けて体制を整えていく。
- ②利用者が適切なサービスに結び付けられ、就労訓練、就職、定着の成功事例を増やし、就労定着支援の強化をはかる。

#### 3. 働き甲斐のある職場の実現


- ①朝礼や月例会を活用し、正しい情報を速やかに発信し共有する。月例会においては職員の発表の場を設けるなど、個々の役割と達成が実感できる機会を作る。
- ②日常的な声かけや、定期的な職員面談を実施し、職員が話しやすい環境づくりに努める。
- ③ワーク・ライフバランスを推進し、個々のモチベーションの向上をはかる。

#### 4. 地域福祉と地域貢献

- ①地域で行われるサロンや行事に積極的に参加し、顔の見える関係づくりを行う。
- ②ボランティアやサークル活動が安心して開催できるよう、意見交換や感染対策の強化をはかる。

事業経営の透明化とガバナンスの強化を一層図り、法人5拠点での活動がより円滑に行えるようバックアップを行う。また、地域・地域資源とのネットワークづくりを主体的に取り組んでいく。

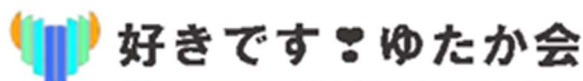
重点課題としては、「魅力あるゆたか会づくり」のため、人材の確保、業務省力化、財務規律と内部牽制体制の構築・強化を柱に下記の重点実施7項目とする。

1. “ 好きです！ゆたか会” をスローガンに「魅力あるゆたか会をつくる」 「働き方改革の実現」に取り組む。  
 =事務活動方針=  
 ～我々の存在意義を考え共有・協働・共感する～
  - ・さまざまなニーズへの対応力を（スタッフ個々の専門性の向上に努める）
  - ・情報共有を活性化し創造的な関わり（相互理解と相互連携の精神で協働する）
  - ・職員の頑張り笑顔（SNSを最大限に活用）
2. 安定した人材確保のため、法人の取組み（ゆたか会の魅力）、地域の魅力をホームページやSNSで積極的に発信し、人との繋がりを大切にしながら求人活動ツールの効率的に活用する。また、外国人介護人材の活用を有効かつ継続的に行えるよう関係機関との連携を強化する。
3. 業務省力化を促進させるためICT管理を確実に実行する。また、外国人介護人材や高齢者、障害者雇用等ますます多様化する職員構造を見据え、あらゆる職員が使用しやすい介護記録ツールやICT基盤の整備検討等、業務効率・生産性の向上を考えた労働環境整備を押し進める。
4. 防災対策（BCP）を強化する。これまでの防災訓練（避難訓練、炊出し訓練、防災教育）に加え、地震等の大規模災害を想定した事業復旧・再開訓練（計画）に取り組む。
5. フードサービス  
 安心安全でおいしい食の提供を基本に、介護報酬改定に対応した管理栄養士体制を構築する。また、業務改善・業務省力化・業務標準化を一層図る。
6. 人材確保難や介護保険事業を中心とした不均衡な収支バランス等、法人を取り巻く環境が厳しい中、修繕計画に基づく大規模修繕等の優先順位を常に評価し、計画的な資金運用と収支バランスのとれた運営が行えるよう経営指標データの算出を適宜行う。
7. 設備資金借入金の償還（さわの風・清湖園・ほろんの建設分）が遅滞なく行えるよう資金計画を進める。

設備資金借入金残高

（単位：円）

借入償還拠点	さわの風	清湖園	ほろん	法人全体
借入金額	200,000,000	80,000,000	70,000,000	350,000,000
借入期間	2011.7.12～2036.7.10 (25年間)	2005.9.12～2025.9.10 (20年間)	2015.10.16～2040.10.10 (25年間)	
2021年度元金償還額	9,048,000	3,990,000	2,844,000	15,882,000
2021年度期末借入残高	129,688,000	15,960,000	52,851,000	198,499,000





## 2021年度 法人事務センターフードサービス係 事業実施計画

安心安全でおいしい食事の提供を基本に、ご利用者の食支援、栄養ケアを充実させる。

介護報酬改定に対応した管理栄養士体制の構築と共に、障害福祉サービスの栄養ケアに取り組む。また、感染症や災害時の備えと業務継続に向けた取り組みを行い、対応力強化を図る。引き続き、業務改善、業務省力化、業務標準化とリスク管理を行いサービスの質を向上させる。

### 1. おいしい食事の取り組み

- ① 行事食や面前調理、喫茶、お菓子作りなど、多職種協同でご利用者に喜んでいただける季節感のある食の提供を行う。感染症等の状況に応じた安心して楽しめる方法で行う。

限られた人員でいかに楽しんでいただけるか、部署間の連携を大事にして取り組んでいく。

- ② ご利用者にとって昔懐かしい食事や嗜好に沿う複数献立、ユニットケアや自立支援等、施設の特色やニーズに対応して食事を充実させる。

### 2. 終末期の食支援

最期まで口から食べる支援をするために（安全に口から食べ続ける最終手段として）安易に高栄養食品を選択するのではなく、本人、家族・介護者の想いに寄り添い、いかに本人らしく過ごしていただけるか食を通して支援を行う。

### 3. 栄養ケアの充実

介護報酬改定により、基本サービスとして状態に応じた栄養管理の計画的な実施が求められている。また、栄養マネジメント強化加算が新設され、より専門的にご利用者一人ひとりの栄養状態、嗜好等を踏まえた食事の調整等が求められている。障害福祉サービスの方には定められていないが、清湖園も利用者の高齢化、重度化に対応するために栄養ケアを充実させる。

栄養ケアを充実させることで、終末期の食支援もご利用者の機能が落ち切ってから始めるのではなく、段階をおってできるのではないかと。終末期の食支援が特別なものではなく、自然な形に近づくように取り組んでいく。

### 4. 栄養業務の効率化

- ① ルーティン業務、帳票類の作成などを上半期に再度見直し、時間短縮する。
- ② 新人職員の業務指導と役割分担、栄養士間の連携体制を整備する。

## 5. 厨房業務・衛生管理の標準化

- ① 食品衛生法改正による HACCP 制度化（義務化）に対応した、一般衛生管理（原材料の管理・設備の整備・調理者の衛生および体調管理）と重要管理（加熱温度・冷却温度・盛り付け、二次汚染の防止）の衛生管理計画を実施する。各拠点の衛生管理記録を適切に行い、記録漏れがないようにする。衛生研修会等で定期的に見直し業務手順書の改正を継続する。必要な時に誰もがすぐに確認でき、OJTにも活用できる形にする。本部厨房の課題として、手洗い器の増設、検収場の前室（囲い）の工夫、吊り下げエアコンの取り外し、配膳車プールの清潔・不潔の交差の改善、ソフト食の保管方法の改善に取り組む。
- ② 各拠点の給食業務マニュアルの随時改定と定期的な見直しを、フードサービス係会議やそれぞれの担当者会議・厨房会議で行う。やまゆりの里では、食事形態別の見た目や食べやすさの統一を図るためのマニュアル化に取り組む。
- ③ 新しい職員への厨房業務の指導と本部と各拠点との応援体制によって、有給取得ができる体制にする。

## 6. リスク管理

事故を未然に防ぎ、安心安全を守るため、ヒヤリハットで情報共有することを習慣化する。危険を予知した行動が身に付くことでサービスの質が向上する。また、ヒヤリハット事例や事故報告を合わせて分析、対策をたて業務手順に活かす、リスク管理の仕組みを作る。

## 7. 感染症や災害時（非常時）の備えと業務継続に向けた取り組み

- ① 感染症や食中毒発生時の様々な状況を想定した段階的なマニュアルの整備をする。
- ② 非常食（備蓄食料）の種類や数量、管理方法と通常献立使用サイクルを見直す。

課題として、備蓄量と期限、通常献立使用時の食数や一人量と災害時に想定される必要量とのギャップによって、管理しにくい。常食やソフト食など食事形態によって使用するものが必ずしも同じではなく、施設によって使用割合が違うので把握しにくい。これらをわかりやすく管理できる方法を検討し、入在庫、在庫量、使用日などの情報を誰もが共有できる備蓄食料管理表を作成する。